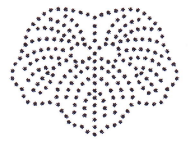


「リゅうま伝」は高野の分身がお客様とこころへご挨拶に向う。という気持ちでお届けいたします。



リゅうま伝

44号
2023年7月26日
高野竜馬

「今さらコロナ」

今さらコロナになつた高野です。仕事で、さほどご迷惑をおかけしなくて済んだのは不幸中の幸いでしたが、アポイントの変更にご協力頂いた方々にはこの場をお借りしてお詫びを申し上げます。

むしろ仕事の調整という意味では昨年の5月と7月に、我が子が一人ずつコロナに罹り、た時の方が大変でした。感染もしていないのに10日間(合計20日)も自宅待機を強いられたのは大きな痛手でした。奇跡的に仕事に大きな穴をあけることは無かつたものの、仕事の先送りやケガは致命傷になることを身をもって体験したので、それ以降、仕事は前倒しするようになりまし

人は本当に困つた状況にならなると、なかなか自分のスタイルを変えられないものですね。そして今回は初めて私自身の罹患。7月3日(月)の夜、少し体がだるいなと思いつつ、翌4日、朝から発熱。

その日は大切なお客様との昼食会も予定されていたのですが、経験したことのない熱、ほさに感じるものがあつて、思い切つてキャンセルさせて頂きました。

コロナが来て変わったのは、周回のご理解も速くなったことでしょうか。責められることもなく、「お大事に」と言つて頂き、昭和生まれの私は妙にホツとしたものです。

今思えば既往症のある高齢者も送迎して、食事に

参加しなくて大正解でした。昼過ぎ帰宅すると抗原検査キットもあける余力もなく睡眠。夕方なんとか気を取

り直して検査すると「陽性」。39度超の熱。どうせなら保険がもらえる時にかかりたか、たなく、なんて余計なことを考えたりしつつも3日

晩、高熱にうなされました。個人的には熱だけ辛抱してれば大丈夫な病気だなどという感じでしたが、寝込んでいる時に、たまたま知人のSNS投稿を見て唖然。

その方は、訪問薬剤師としてここ6、7年で80人ほどを看取つてあり、その体験が新聞に取り上げられていたのです。しかも直近2つの看取り体験はいずれもコロナが引き金となっていました。

おひとりにはガン看者で、高齢の両親を介護中、コロナに罹

患して亡くなったという話でした。その記事を見た時、自分が誰かの感染源になつていないだろうか?と想像するとゾツとしました。

正直、私はここ数年のコロナ騒動をバカバカしく思つていました。病氣に対する過度の反応を、けいだとも思つていました。

けれど人によつては、それが大きな脅威になることを改めて思い知りましたし、そんな弱者に対する配慮は失わないようにしなければ、と考え直すさせられたコロナ体験でした。



たかの財形事務所

〒819-0374 福岡市西区千里 707-13

☎090-3407-2123

<https://www.takanozaikai.com> x-11 fp.takano@gmail.com